

～支えあう 住みよい社会 地域から～

民児協だより



KANAGAWA



…まなざし… 体験から学ぶ災害への備え

松田町民児協は、災害に備える活動として、心肺蘇生訓練や避難所運営ゲーム・自然災害をテーマとした研修を実施しています。

今年は、風水害・煙避難・消火・119番通報体験コーナーや災害体験VR・防災情報フロア等が設置されている神奈川県総合防災センターに行き、自主防災組織の意義や役割、最大で秒速30mの強風・煙で満ちた迷路の中での避難や、倒壊家屋内からの生存者救

出訓練、段ボールを用いたベット・簡易トイレの作成、避難所開設時の配慮事項を学びました。また、被災時に遭遇する場面での決断を話し合うクロスロードゲームを体験しました。

日常生活では体験することがない強風や煙の驚異を体感し改めて考えて行動することや、連携作業の重要性等、災害への備えの必要性を再確認できた有意義な防災研修でした。(松田町民生委員児童委員協議会)



No.
163
2025.12
冬

神奈川県民児協設立50周年
記念キャラクター「みんぴょん」

特集

- ①広報委員の3年間を振り返って
- ②「期の浅い委員へのサポートに向けたヒント集」の作成報告

●通信員だより(三浦市・厚木市・中井町)

特集

3年間共に「民児協だより」を創り上げて
くださったみなさん ありがとうございます

民児協だよりは、ブロックごとに1名ずつ民生委員児童委員または主任児童委員を選出いただき、
広報委員として紙面制作・校正、取材等にご協力をいただいています。

共に創り上げた「民児協だより」が、今後も1人でも多くの方の活動の支えとなりますように。
広報委員のみなさん、そして、オブザーバーとしてご協力いただいた県民児協副会長 白井幸江さん
3年間ありがとうございました。



みなさんに次の3つをお伺いしました！

- ① 印象に残っている取材
- ② 広報委員として活動する中で意識していたこと
- ③ 次期、広報委員へのメッセージ



委員長
守屋 孝幸さん
(松田町)

- ① 私が、印象に残っている取材は、忘れかけていた民生委員活動とは何かを喚起くださいました川崎市田島町のたじま家庭支援センターと、災害に備える平時の取り組みをご披露くださいました座間市第5地区民児協・秦野市民児協です。この他にもご披露くださいました活動内容は、どれも所属民児協に取り入れたいと目を見張るものばかりでした。
- ② 広報委員活動には、取材・原稿執筆・校正という作業があります。取材で意識したことは、取材にご協力くださいました方々に不快感を与えない。原稿執筆では、取材内容を簡潔明瞭に文章化する。校正では、誤字脱字・氏名名称・数字を、取材記録や配布資料と対照する。文末表現の適切化に傾注しました。
- ③ 広報委員には、3つの楽しみがあります。1つ目は、事務局職員・オブザーバー・広報委員との新たな出会い。2つ目が、県民児協だよりの紙面では味わうことができない取材先の方々との交流。そして最後に広報委員会では、多くの意見に接することができます。多くの意見に接することは、取材や原稿執筆に役立ちます。広報委員活動は、「学びと感動」の宝庫です。

- ① 何処の地区も地域と連携して活発で大変に感銘しました。特に座間市は、新人さんを育てる事を、独自のファイルなどで事務局と共に行っていて、熱心さが印象的でした。
- ② 1 ページでも、目を通して読んでいただけるように、分かりやすさを心掛けてました。
- ③ 他地区の活動など勉強になりますので、あまり気負わずに広報委員会を楽しんでください。



副委員長
齋藤 啓子さん
(大和市)



小林 美幸さん
(藤沢市)

- ① 自分の居住区でもある、藤沢駅直結の商業施設内の「スターバックス」で行われている認知症カフェ。とても近くでこのような活動があると知ることができました。参加者やその家族の方の言葉(気持ち)に耳を傾けながら話を進めていくファシリテーター。時間を忘れておしゃべりに皆さん夢中でした。
- ② 今まで通り一遍しか目にしていなかった「県民児協だより」「福祉タイムズ」にごめんなさい…という気持ちで始めた広報委員でした。どの号も語尾・言葉の使われ方・配色等、丁寧に読み込んで意見を交わす場は、とても貴重な経験でした。皆様に隅々まで読んでいただきたかったと思っていますことが伝わりましたでしょうか…
- ③ 広報委員としての経験は子どものPTAでの4年間のみでした。文章を校正したり書くことが得意でなくても、何とかできます。それよりも、他地区の方と様々なコミュニケーションをとれる良い経験になりますので、これからの民生委員としての活動や今後の感じ方、考え方にもきっとプラスになると思います。楽しんで3年間を送っていただきたいです。

- ① 横須賀市民児協への取材
白井会長のリーダーシップの下、これからの横須賀市民児協の活動の方向性を県民児協のアドバイスを得ながら作成されていました。横須賀市民児協の本気度を感じました。
- ② 「県民児協だより」の認知度があまり高くないので、民生委員の皆さんが興味を引くようなテーマがあればと考えていました。
- ③ 他地区の民生委員の方と交流できるいい機会です。他の広報委員の方から沢山の刺激をもらえました。もう少し早い時期に広報委員会に参加できていたらと思います。



宮崎 進さん
(葉山町)



菅 重男さん
(伊勢原市)

- 1 大和市民児協が取り組んだ「民生委員・児童委員」を周知する広報活動として、市民を対象に行なったアンケートについての取材が身に染みております。このことについて、8月に東京都霞ヶ関において開催された「全国児童委員・主任児童委員活動研修会」に参加して、全国共通の課題になっていることが、私なりに感じたからであります。子育て家庭の親から、支援の相談を受けることがない原因を皆さんがもがいていらっしゃいます。
- 2 委員皆さんが同様であると思いますが、それぞれの「市」を代表して「民児協だより」の編集に携わっていると意識すると些か重圧を感じるものでした。
- 3 自慢できる実績を残したことが有ればアドバイスできたかも知れません。人との出会いが自分を心豊かにすることは間違いのないことであります。当初は緊張しますが、3年間のうちに皆さんと親しくなります。常に笑顔を意識して会議に臨んでください。

- 1 藤沢のDカフェで認知症の当事者やその家族、関係機関の職員も参加して「自分が認知症になったら」というテーマで意見交換が行われました。地域で行き場のない認知症の方を救うには、地域の事を一番知っている民生委員の協力が不可欠だというファシリテーターの平田さんの言葉は、深く心に響きました。
- 2 市の代表で来ているという事を常に念頭に置いていました。取材に於いては自分の市と比較したり、参考になる所を探したりする事を意識して臨みました。また、年一回行われる通信員との研修会で得た知識や情報は、地区の定例会や、オブザーバーをしている市の広報委員会でも報告させていただきました。
- 3 ある学者は、人と人とのコミュニケーションをする際には、言語情報よりも聴覚や視覚からの情報の方が大きく影響を与えていると言っています。明るい表情で、大きく聞きやすい声を意識するだけで会議でも、取材でも良いコミュニケーションがとれると思います。難しく思わずに、やってみてください。これだけで色々な事が解決できます。



嶋村 真由美さん
(座間市)



県民児協だよりは「民生委員児童委員、主任児童委員による、民生委員児童委員、主任児童委員のための機関誌」です。
自分の地域でこんなおもしろい取り組みをしている！
こんなテーマ(話題)を取り上げてほしい！などなど、
ぜひみなさんのお声を届けてください。
お待ちしております。

12月より新任の委員となったみなさん、また、コロナ禍に委嘱され思うような活動ができずに新しい期を迎える委員のみなさん、新たに始まる3年に様々な面で、不安や緊張を感じているのではないのでしょうか。

県民児協総合企画委員会では、期の浅い委員へのサポートの一助となるよう、委員の協力のもと、期の浅い委員へヒアリングを実施し、みなさんの“声”を届けていただきました。このヒント集では、期の浅い委員が活動に対して感じていること、先輩委員等のサポートや期待すること、各市町村民児協におけるサポートの工夫等をまとめています。新任の方は、まずこのヒント集を開いてみてください。

持続可能な委員活動において、「委員の定着」への取り組みは欠かせません。ぜひご覧いただき、今後の活動の参考にさせていただくとともに、この機会にそれぞれの地域において、期の浅い委員へのサポート

ヒアリングについて

ヒアリング対象者 ▶ 3市4町の民生委員児童委員、主任児童委員
ヒアリング項目

各場面において感じていること

- (1) 住民への支援活動
- (2) 民児協活動
- (3) 行政や専門機関・団体との連絡調整
- (4) 記録など
- (5) その他

細 目

- ① やりがい(喜び)を感じていること
- ② 悩み
- ③ 実際に受けてよかったサポート
- ④ あるとよいと思うサポート

ートについて考えるきっかけになれば幸いです。

ヒント集では、サポートのポイントをわかりやすく、また、イメージしやすいようイラストを用いて掲載しています。掲載されているサポートのほか、“自身の地域ではこんな取り組みをしている”“こんなサポートも考えられるのでは”等、地域で話し合いながらアイデアが広がるきっかけとしても活用いただけると嬉しいです。



●ヒント集作成にあたって

総合企画委員会では委員が活動を通じ、「実際に受けて良かったサポート」や「あると良いと思うサポート」についてヒアリングを実施、その中で多くの委員から寄せられた訪問活動や地域の困りごとの“きづき”かた、民児協の活動・関係機関などとの連絡・調整方法を具体的な事例に重ね、そのヒントが記載されています。特に新任委員の人は活動に不安を感じたら、ページを開いて参考にしてください。

●期の浅い委員へのメッセージ

委員の福祉活動の入り口は大変幅広く、そして奥深いものです。しかし、その一つを知り、学ぶことで様々なことや「みまもりかた」がわかると思います。そして、重ねることで自分なりの正解が必ず見つかると思います。様々な経験や研修は見えない“つながり”もありますが、とても大切です。継続し、一緒に、「委員をやっているよかった」探しをしましょう。

一つずつ重ねながら見つける

「民生委員児童委員をやっているよかった」と思えること

総合企画委員会 委員長 白鳥 勉さん(伊勢原市)



「期の浅い委員へのサポートに向けたヒント集」を作成しました！

「斉改選により新任の委員を迎え入れ、新たな体制となります。県民児協総合企画委員会委員の協力のもと、期の浅い委員へヒアリングを実施し、今後の活動の一助となるよう、ヒント集を作成しました。このヒント集をきっかけに、各市町村民児協において、期の浅い委員へのサポートについて考え、見直す機会としましょう。」



県民児協HPへの掲載準備中

いい加減ではなく、良い加減に

寒川町民児協副会長であり、県民児協総合企画委員会副委員長でもある小西悦子さんに、期の浅い委員と接する際に大事にしていることや、寒川町民児協としての取り組み等について、お話を伺いました。



民生委員児童委員として6期目

(18年目)、寒川町民児協副会長としては4期目(12年目)となる小西悦子さん。以前、公民館や学校に関わっている中で、委員活動への打診を受けましたが、当初は、委員活動は高齢者宅を訪問し、実際に介護等を行なうといった間違った認識をしていたこともあり、自分自身には対応が難しいと考え、一度お断りしたそうです。ですが、何度も打診を受ける中で「小西さんができる範囲で活動いたくことで構いません」という言葉に後押しされ、「それならやってみよう」と委員活動をスタートしました。

1期よりも2期、2期よりも3期で得られるやりがい

なぜ18年続けてくることができたのか尋ねました。「活動をしていると、時に嫌な思いをすることもありますが、それ以上に得られるものがある。それは、委員を1期、2

期、3期と続けていくことで、その実感も多くなり、最初は大変かもしれないけど、必ずそう思える時がくる。だからぜひ1期だけでなく、2期、更には3期と続けてほしい」と力強く語られました。

一方、個人の委員活動に対する思いだけでは、時には辛い活動を乗り越えることは簡単ではありません。

先輩委員からの意識的な声かけ

小西さんが新任の頃、定例会等の際に、先輩委員の方から声をかけてもらったことがとても嬉しかったと話されます。その経験を生かし、新任の方が少しでも早く馴染むことができるよう「〇〇さん、こんにちは」と名前を呼びながら声をかけることを意識しているとのこと。声をかけていただくことで新任の方も「気にかけてもらっている」という安心感に繋がっているのではないかと思います。

あて職の捉え方を変えてみる

いわゆる「あて職」について小西さんは「委員活動をする上で参考となる知識の習得や、顔の見える関係づくりのきっかけであり、ありがたい機会。また、視野が広がりが、委員活動のやりがいにも繋がっている。あて職の捉え方を変え、少しでも前向きに考えてみてほしい」と話されます。

寒川町民児協活動マニュアル

平成27年に作成し、適宜、内容の見直しを行っている独自マニュアルの引継ぎ事項には「支援している方には改選後、退任者から新任委員を紹介してください」と記載されています。新任の当手を振り返り、最初の訪問は不安も大きく、訪問のきっかけづくりが難しかったとのこと。先輩委員と一緒に訪問し、顔つなぎをしてくれることで、新任委員の始まりの一步を支えています。

取材を通して小西さんは、何度も「思いやりを持って、お互いに補い合える体制が大事」とお話しくださいました。一人ひとりの歩み寄りや思いやりが、持続可

小西さんから期の浅い委員のみなさんへ



春は桜が綺麗な
さむかわ中央公園で
撮影しました

委員のみなさんにも、その方その方の生活があると思います。例えば、仕事しながら、介護しながら民生委員児童委員として活動している方は、毎月の定例会や研修会、サロン活動等、全てへの出席が難しいと思いますが、自分のペースで、無理をしないでください。そのためにも、周りの委員同士でお互いを補い合いながら、取り組める体制があると良いのではないかと思います。

そして、困難なことは先輩委員の方に聞き、自分一人で抱え込まないでください。同じ民生委員児童委員として活動する仲間として、みなさんが、いい加減ではなく「良い加減」に委員活動を続けてくださることが希望であり、願いです。

能な委員活動への一歩であると感じました。小西さんの仲間を想う気持ちで真っ直ぐに伝わってくる取材でした。

NEWS&インフォメーション



令和7年度第94回全国民生委員 児童委員(北海道大会)の報告

令和7年9月4日(木)～5日(金)の2日間、北海道札幌市北海きたえーる(北海道立総合体育センター)札幌コンベンションセンターで開催された全国大会に、神奈川県民児協から理事、受賞者、事務局を含め12名で参加しました。

1日目の式典オープニングでは、アイヌ伝承保存会の方がムックリ(口琴)の演奏をしてくださいました。また、アイヌ語で「こんにちはは

「あなたにの心にそっと触れさせてください」の意味があるそうです。次に、よさこいソーラン舞に魅了

され、表彰へと移り、本県の優良民児協では茅ヶ崎市小和田地区と伊勢原市大山高部屋地区の2地区が表彰されました。続いて特別講義ではノンフィクションライターの渡辺史氏による「なぜ人と人は支えあうのか」のテーマで講演していただきました。重度障害者とボランティアの交流を描いた「こんな夜ふけにバナナかよ」の著者でいらっしゃいます。

自分らしく生活していくために自ら声を出してボランティアを募り、体は不自由でも心は自由をモットーに「できないことをできると信じ支える」「支えられる人と人との関わりを生活に取り入れた」という内容でした。講演後に札幌国際情報高校吹奏楽部による踊りながら演奏するダンプレというスタイルの吹奏楽を聞きました。ダンプレは楽器を吹きながらダンスも一緒に行うという若い力に感心させられました。

2日目は「生活困窮者への支援と地域共生社会の実現」をテーマとしたシンポジウムに参加しました。今日の物価高騰に加え、雇用や人間関係などさまざまなことが絡み合うなかで、その対象となる地域の方々が増加しています。こうした中で地域を歩き、訪問活動をしている身近な相談相手である民生委員児童委員が気づき、関係機関との橋渡しを担う役割の重要性がいっそう高まっていると思います。人々の暮らしにおける支え合いの基盤も弱くなっている、共生社会ではつながりも薄れていると感じています。支援を求める

「声を出せない人」「声を出さない人」が数多くいられるのも現実ではないでしょうか。

私は地域で子ども食堂に関わり、たくさんの方々とおふれあっています。食品ロスをなくすために食品を扱っていらっしゃる機関から食材を提供していただいています。利用者の皆様から「おいしかった」「ありがとう」の声を聞くと、朝からの仕込みの大変さもふきとび笑顔となり、出来る喜びも感じています。

この大会に出席させていただきまして有意義な2日間を過ごすことができました。ありがとうございました。

(二宮町民児協会長 守屋 保子)



参加者の皆さん、お疲れ様でした

茅ヶ崎市海岸地区における「独居高齢者の見守りネットワーク」

2日目の活動交流集会1では「高齢者・障がい者が安心して暮らし続けることができる地域づくり(地域包括支援)」をテーマに、3地域の民生委員から実践報告があり、本県から茅ヶ崎市海岸地区民児協会長の丸山泰さんより「独居高齢者の見守りネットワーク」(以降、ネットワーク)と題して、ご報告がありました。

独居高齢者の見守りが大きな課題となる中で、よりよい見守りの検討や民生委員の負担軽減を図るため、令和3年8月に開始したネットワーク。地域包括支援センターや行政の職員等との連携のもと、高齢者に関する情報共有やマップづくり等に取り組んできました。その成果として、ネットワークメンバーが情報を共有し一緒に活動したことで、高齢者に対して福祉サービス等の情報をスムーズに提供できた点や民生委員が活動する上での安心感等につながった点などがあげられています。そしてご報告の後段では、独居高齢女性に対するネットワークメンバーによる見守りや最期の見送り等、温かく貴重な実践についても伺うことができました。

通信員だより



三浦市

「こんにちは赤ちゃん」 赤ちゃん訪問

通信員 山岸 義明

15年前の秋にスタートした「赤ちゃん訪問」を紹介します。

赤ちゃんの誕生はとてもハッピーな事です。そのチャンスを捉え、地域と子育て家庭をつなげる活動であり、これを企画したのは、主任児童委員会です。

市の保健師さんから承諾を得て、生後3～6カ月の赤ちゃん家庭を、主任児童委員と民生委員・児童委員で訪問します。元気な赤ちゃんを見て、お母さんに簡単な誕生祝いと「ほっと＊ハート」の案内、児童委員の紹介をします。当時の赤ちゃん出生数は200人を超えていました。

平成18年、子育てサロン「ほっと＊ハート」が、活動を開始しました。多くのお母さんと乳児が集まり、お母さんたちに息抜きを提供するのが、目的です。同じ喜びと悩みを持つ、お母さんたちの懇親の場となり、同時にママ友の誕生です。子育て家庭の孤立防止となります。

少子高齢化で赤ちゃんが少なくなっています。ますます、子育て家庭とのパイプが重要と思い、これからも活動を進めてまいります。



赤ちゃん訪問時、5人家族の皆様

厚木市

食糧支援の「はじめのいっぽ」

通信員 江良 泰成

南毛利南地区は、小田急線の愛甲石田駅を中心として、5350世帯の方々に対し、「きづく・つなぐ・みまもる」を意識して活動しています。

特に、コロナ禍後は気になる子育て世帯があっても、なかなか関わることが難しい（直接の訪問を断られる等）状況です。

そのような世帯に寄り添う方策として「食糧支援」や、見えない貧困（助けてと言えない人たち）に対してのアプローチ、また、フードバンクのランチとして試行的に開催することで、子育て世帯の状況が把握できないかと考え、市内で活動されている「フードパントリーえんむすび」さんの取り組みに見学・お手伝いに出向きノウハウを学んでいます。



活動に賛同している民生委員仲間です！

個人情報問題もあり、一家庭ごとに時間を区切って食糧をお渡しすること、えんむすびさんのランチとして、12月の冬休み前の開催を目指しています。

この「はじめのいっぽ」から今後につなげていくことができるよう、慎重に準備を進めていきたいものです。

中井町

笑顔で活躍する仲間達

通信員 西尾 美嘉子

この時期、あたり一面の緑に囲まれている町全体が秋色に変わっていきます。

中井町民児協は、そんな自然豊かで穏やかな農村地域を見守り続けています。今回は3つの地区会のうちの1つ、井ノ口地区会の活動を紹介します。

井ノ口地区会では毎年、井ノ口地区自治会長連合会との合同懇談会を開催しています。近年は「防災時の対応」をテーマに取り上げることが多くなっています。地区委員は積極的に防災訓練にも参加して地域の状況の把握に努めています。また、合同懇談会を行うことで自治会との連携も強化され、個々の状況に応じた要支援者の支援体制づくりに役立っています。

今年度は、高齢化率が36%を超える町の現状から、在宅で暮らすお年寄りが増える場合に地域としてどのように支援につなげるかをテーマに、地域包括支援センター職員からお話を伺いました。また、地区委員からは実際に支援につなげた事例を紹介するなど情報交換を行いました。



防災グッズの確認と体験中

この懇談会は情報交換の場として有意義なものであり、地区の防災力を高めるとともに、地区委員のモチベーションの向上のため、これからも継続していきたいと思えます。

ホームページをご活用ください！

☆県民児協ホームページでは、民生委員・児童委員制度や活動に関する参考資料などを掲載しています。
委員専用ページをご覧ください。次のログイン情報をご入力ください。

